



啐啄同時 (そつたくどうじ)

ある日、運動場で何気なく空を見上げると、ツバメが滑空しながら旋回し、体育館のひさしの奥に消えていきました。そこで消えたあたりを探しますと一つの巣があり、二羽のツバメが出入りしていました。子燕の存在はわかりませんでした。いつの日か親子ともに巣立つのを楽しみに見続けたいと思います。

「啐啄同時」という禅の言葉が思い浮かびました。雛が生まれ出るときに内側からくちばしで殻を割ることを「啐」、同時に、親鳥が外側からくちばしで殻を割ることを「啄」と言います。この親子の共同作業があって雛の誕生となるのです。

ところで、子どもたちの成長の過程で、「啐啄同時」、即ち親や教師の働きかけと子どもの自発性が一致する機会は一生のうちに幾度となくあると思います。しかしながら、その時期を知るのとはなかなか難しいものです。

ただ一つ言えることは、親や教師は普段から子どもたちの様子に気をかけ、子どもたちを十分に理解してあげることに尽きるのではないかと思います。親がしつける、教師が指導するタイミングと、子どもが納得するタイミングが合致して、親子の、教師と子の心が通じ合い子どもたちは大きく成長するに違いありません。

「啐啄同時」という言葉の意味を少しでも意識して毎日を過ごせたらと思います。



5年田植えに挑戦

6月25日、5年の子どもたちは、かつらぎ農園で田植えをしました。本校OBの藤原先生をはじめ、たくさんの地域ボランティアの方々がやさしく丁寧に指導してください、子どもたちは慣れない手つきではありましたが、真剣に取り組む、無事植えることができました。



子どもたちと一緒に生育を見守り、秋にはたくさんの稲が実るのを楽しみに待ちたいと思います。

今後とも、ご指導、ご協力よろしく申し上げます。

まなび舎スタート

6月15日から、放課後学習「まなび舎」がスタートしました。今年度からは内容を一新し、子どもたちは自分のペースにあった算数プリントに自主的に取り組み、ボランティアの方々に丸つけをしてもらう方法にしました。



まなび舎では400種類のプリントを準備し、子どもたちの目標に向かって取り組む気持ちを大切にしていきたいと考えています。

また、地域の方や大阪河崎リハビリテーション大学の学生さんが、ボランティアとして参加してくださっています。ありがとうございます。

指導力向上に向けて

本校では、今年度「子どもが楽しく意欲的に学ぶ授業づくり」をテーマに掲げ、校内研修を進めています。第一回目の研究授業を6月27日に3年1組金谷学級で実施しました。今回は、算数科で子どもたちの興味関心を引き出すための教材を作り授業を進めました。

今後、低学年・高学年ブロックでも、重点教材を研究し、よりよい授業のあり方について研究していきます。

校内研修当日は、下校時間の変更などでご迷惑をおかけしますが、ご理解ご協力をお願いいたします。

不審者対応訓練

本校では校門に安全員を配置したり電子錠をつけるなど学校の安全に努めていますが、万一に備え、教職員の不審者への対応や子どもたちが適切な避難行動ができるよう、6月26日に不審者対応訓練を実施しました。

また、木積駐在所の湯浅さんからは、町なかで不審者に遭遇した時の対処方法などについて教えていただきました。

ご家庭でも、子どもたちに、自分で自分を守ることの大切さをご指導いただけたらと考えます。

読み聞かせ活動

読み聞かせボランティア「ざいん」の方々による読み聞かせ活動が始まりました。21日には1年生に面白い絵本や戦争の絵本を披露していただきました。



子どもたちは話の世界に引き込まれ真剣に聞き入っていました。

今後、他の学年の子どもたちにも読み聞かせを行っていただく予定です。よろしくお願いします。

また、ボランティア会員さんを引き続き募集していますのでご協力をお願いします。

美しい言葉 やさしい言葉

私達は日常色々な言葉を使います。友達と話をしたり、家族と会話をしたり、会議や打合わせをしたり、言葉は人と人とのコミュニケーションに大切なものです。

言葉には心が現れます。だから言葉が乱れてくるということは心が乱れてきていることの現れです。

心が乱れてくると、善悪の判断ができなくなったり、前後の見極めができなくなったり、正常な判断ができなくなってしまう。

言葉は生きています。人を傷つけるも生かすも、言葉次第なのです。

学校では、言葉を大切に使い、美しい言葉ややさしい言葉に心掛けるよう、引き続き指導していきます。

ご家庭でも子どもたちの言葉遣いに気をつけて見ていただき、ご指導いただくようお願いいたします。